

西夏文『新集金碎掌置文』の研究 1

小高裕次
(文藻外語學院)

A Study of "Gold Nuggets in the Palm" 1

KOTAKA, Yuji
(Wenzao Urusuline College of Languages)

キーワード：西夏語, 『新集金碎掌置文』

0. はじめに

0.1. 『新集金碎掌置文』とは

『新集金碎掌置文(以下、『金碎』と略)』とは、西夏人によって作られた西夏文字の識字教育用テキストである。

『金碎』の正確な成立年代についてはまだ明らかになっていないが、本文第三九連から第四一連にかけての西夏の周辺民族を対照させた部分において、契丹人についての言及があるにもかかわらず女真人には全く触れられていないことから、西田(1997)は、金朝の成立する 1115 年以前、「たぶん崇宗の時代(一〇八六-)の作ではないか」との見解を述べている。

現存する『金碎』は、ロシアとイギリスの二カ所に保管されている。前者は、ロシア科学院東方研究所サンクト=ペテルブルグ分所蔵のコズロフ探検隊将来カラホト(黒水城)文献の中の二種類の写本である。後者は、スタイン・コレクションに含まれている十枚ほどの小断片である。

サンクト=ペテルブルグの二種類の『金碎』には、No.741 と No.742 という整理番号がつけられており、ともに『俄蔵黒水城文献』第 10 巻に収められている。No.741 は序文と奥書の付いた胡蝶装の完本で、楷書に近い行書で書かれており、読みやすく美しい書体である。一方、No.742 は経典の裏面に書かれた読みにくいもので、書体は稚拙な印象を受ける上に途中で放棄されている。

0.2. 先行研究

本稿を執筆するにあたって入手できた先行研究は、聶・史(1995)と西田の諸研究である。

聶・史(1995)では、序論を含む全文の逐字訳および西夏文テキストの一部分(本文 26-38 行・42-53 行)が掲載されている。特に、漢人姓の部分の解釈については注目すべき点が

ある。この部分の詳細については後の章で述べることにする。また、同論文はロシアにおける『金砕』の先行研究にも触れている。

西田は、西田(1970a)・西田(1970b)・西田(1997)で『金砕』について触れている。このうち、前者二つは西夏文化の説明のために『金砕』の描写を用いたもので、西田(1970a)では本文第39連から第41連および第83連から第86連が、西田(1970b)では第4連から第5連および第18連から第25連の日本語訳が掲げられている。また、西田(1997)は『金砕』そのものの紹介で、序文の冒頭から9行目にかけてと、本文第1連から第5連・第39連から第41連と第73連・第78連の日本語訳が掲げられている。

0.3. 本稿の目的

筆者の最終目的は、『金砕』西夏語本文の全文紹介と、日本語による全文訳を試みることである。

0.2節で述べた、聶・史(1995)と西田の諸研究は、どれも『金砕』の西夏語本文が一部分しか掲げられていない。また、聶・史(1995)には序文を含めた『金砕』の中国語全文訳が掲げられているが、あくまで逐字訳であり、西田の諸研究では日本語訳がなされているものの、部分訳にとどまっている。識字教育用テキストである『金砕』は、西夏語研究の上で大きな位置を占めるはずであるにもかかわらず、現時点では西夏語本文の紹介も精密な全文訳も行われていないのである。

そこで、本稿では、『金砕』研究の手始めとして、『金砕』序文の全文を紹介した上で、極力平易な日本語訳を行いたい。

0.4. 底本について

本稿では、『俄藏黑水城文献』第10巻所収のコズロフ探検隊将来カラホト黒水城文献のうち、No.741を底本として用いる。

1. 本論

1.1. 書名について

『新集金砕掌置文』は、西夏語では 𐽀𐽁𐽂𐽃𐽄𐽅𐽆𐽇𐽋𐽈𐽉𐽊𐽌 1kyik 1di:k' 1pa:k 1ti:k 2'I:r¹⁾と書かれる。「金砕掌置文」とは、「砕金を掌上に置いたような(美しい)文章」を意味する²⁾。

「新集」については、「新しく集めた」という解釈と「旧版」に対する「新集」であるという解釈の二通りが考えられる。しかし、「新集」という名で始まる西夏語テキストは、『金砕』以外にも『新集錦合道理』『新集慈孝伝』が現存するが、いずれの文献にも「旧版」の存在は知られていない。一方、新旧二種類のテキストの存在が知られている韻書『文海』には「新集」の文字は使用されていない。そのため、筆者はこの「新集」は「新しく

1) 西夏語の推定音は、西田(1997)に基づく。また、表記は基本的に荒川(1997)の簡易表記に従っている。

2) 西田(1997)に依る。

集めた」という意味に解釈したい³⁾。

1.2. 序文

以下に序文の全文と日本語訳を掲げる。

1) [L1] 蔣 斫 胤

1kyik 1di:k' 1mu

金 斫 序

金斫序

2) [L2] ①胤 ②斫 ③胤 ④斫 ⑤胤 ⑥胤, [L3] ⑦胤 ⑧胤

1'ong 2dzo: 1ta:: 2'I:r 2zzyek'2 1ml: 2wi:k 1ku ? 2ty'yIr 1mi: 2ngo:r

夫れ 人-TOP⁴⁾ 文才 NEG-できる CNJ 技芸 NEG-具わる

およそ人は文を作ることができなければ、技芸は具わらず、

①胤 1'ong 本来は「周りを囲まれたところ」という意味を持つが、ここでは「およそ」「夫れ」等にあたる発語の助詞として使われている。

②斫 1ta: 主題を表す名詞後置詞である。

③胤 2'I:r 2zzyek'2 文才。文を作る能力。西夏語訳『大方廣佛華嚴經』では漢文「文筆」「文詞」の訳語として用いられている⁵⁾。

④斫 1ml: 否定の助詞。能力を否定するが多い。

⑤胤 2wi:k 動詞「できる」。

⑥胤 1ku 接続詞

⑦胤 ? 2ty'yIr 胤 ? 「行ふ」。胤 2ty'yIr 「技」。

⑧胤 1mi: 否定の助詞。最も一般的に使われる。

3) ①胤 胤 胤 胤, 胤 胤 胤 胤.

1kyi 2tyeng 1mi: 2tse: 1ku 2nya:r 2tser 2myek'2 2ryek'2

戒 礼 NEG-悟る CNJ 罪 犯す者 多い

法令を理解しなければ、罪を犯す者は多い。

3) 「新集」という用語の解釈に関しては、小高(2003b)の質疑応答における荒川慎太郎氏の指摘に依るところが大きい。

4) 略号は以下の通り。

AFF – 動詞接辞 AUX – 助動詞 CM – 格助詞 CNJ – 接続詞

DEI – 代名詞 NEG – 否定辞 TOP – 主題化

5) 『大方廣佛華嚴經』第36巻。

①綴𠵿 1kyi 2tyeng 法令。西夏語訳『孫子』では「刑罰」「威令」「法令」等の訳語として用いられている。

- 4) ^[L4]
 ① 𠵿 ② 𠵿 𠵿 ③ 𠵿 ④ 𠵿 ⑤ 𠵿 𠵿,
 1se: 1shi: 1qo 2'a 2dzo: 1cha: 2mi:k' 2ra:r 1lduk 1mI:r 1'e: 2se:'
 今 昔-CM 儀礼 蹤跡 後 人-CM 教える
^[L5]
 ⑥ 𠵿 𠵿 ⑦ 𠵿.
 1o" 1yen 2i:'
 功 成す-AUX

今、いにしへの決まり事・足跡を後の者たちに教え、功を成させたいと願う。

- ① 𠵿 1shi: 1qo 𠵿 1shi:は「以前、昔」、𠵿 1qoは「翁」という意味を持つが、𠵿 1shi: 1qoで「昔」という意味になる。この熟語は『孫子』にも見られる。
 ② 𠵿 2dzo: 1cha: 𠵿 2dzo:は「儀礼」、𠵿 1cha:は「路」。𠵿 1cha:が𠵿 2tyeng「礼」と一緒に用いられ、𠵿 2tyeng 1cha:の形で「風俗」という意味を表す例が『類林』に見られる⁶⁾。
 ③ 𠵿 2mi:k' 2ra:r 「蹤跡」、「足跡」。
 ④ 𠵿 1mI:r 一般的に「人」の意味で用いられる西夏語は𠵿 2dzo:である。𠵿 1mI:rは「氏族」「部族」の意味で使われることが多い。
 ⑤ 𠵿 1'e: 格助詞。ここでは primary object を標示している。
 ⑥ 𠵿 1o" 1yen 聶・史(1995)・西田(1997)では「功を成さしめんと願う」のように𠵿 1yen を使役的に訳しているため、本稿もそれに従って訳しておく。
 ⑦ 𠵿 2i:' 助動詞。願望を表す。

- 5) ^[L6]
 ① 𠵿 𠵿 𠵿 𠵿 𠵿 ② 𠵿 ③ 𠵿 ④ 𠵿 ⑤ 𠵿 𠵿.
 1cho 1o" 1e 2yu 1I:r 1o 1tshi: 2o ? 2ci 1kI: 2bu:' 1shyo'2 2ror
 CNJ 目前 速やか 必要 義 一冊 AFF-まとめる
 ゆえにさしあたって速やかに必要な義を一冊にまとめた。

- ① 𠵿 1cho 1o" 𠵿 1cho 順接の接続詞。𠵿 1o"は「縁」。しばしば名詞後置詞として用いられる。
 ② 𠵿 ? ここでは数詞「一」として用いられている。
 ③ 𠵿 2ci ここでは序数詞として用いられている。本来の意味は「根」。
 ④ 𠵿 1kI: 完了相の動詞接頭辞。
 ⑤ 𠵿 2bu:' 1shyo'2 2ror 𠵿 2bu:'「縮める」、𠵿 1shyo'2「集める」、𠵿 2ror「斂める」。

6) 『類林』第四卷、21-10。

6) 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ^[L7] 𪗇𪗇, 𪗇𪗇 𪗇𪗇.

1nuk 2di: 1mi: 1deng 2phyi 1keng 2khl: 2wo 2zi: 1yeu:
 千字 NEG-超える 解説する 万義 皆 含む
 千字を超えずして解説し、万の義をみな含む。

7) ① 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ^[L8] 𪗇𪗇 ③ 𪗇𪗇.

1cyir 1cyir 1kl: 2thl: 2ldi:k 2lhyuk 2lhyuk ? 2sa 2hor
 便利 AFF-合わせる 選択 AFF-繋ぐ
 便利なものをまとめ、選び抜いたものを繋ぐ。

- ① 𪗇𪗇 1cyir 1cyir 𪗇𪗇 1cyir 「利益」「役に立つもの」。
 ② 𪗇𪗇 2lhyuk 2lhyuk 𪗇𪗇 2lhyuk 「採る」。聶・史(1995)では「斟酌」、西田(1997)では「收穫」と訳されている。本稿では「選び抜いたもの」と訳しておく。
 ③ 𪗇 ? ここでは動詞接頭辞として用いられている。

8) ① 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ^[L9] 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ② 𪗇𪗇.

1neng 1mo 1'u: 2dzu:' 1myor 2wo 1'ye 2tya:
 類林 頭 隠す 実義 受ける 非ず
 類林の頭を隠し、実義を受けるのではない。

- ① 𪗇𪗇 1neng 1mo 「類林」は書名。「類林の頭を隠し」がどういう意味を持つのかはよく分からない。
 ② 𪗇𪗇 2tya: 否定の形容詞。漢語「非」に意味が近い。

9) 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ^[L10] ① 𪗇𪗇 𪗇𪗇 𪗇𪗇 𪗇𪗇 𪗇𪗇.

2thl: 2syu1 ldi:k' 2ngu2 2te: 1te: 1zzylr 1kyuk 2ryek2 1kyuk 2ngo:r
 DEI 如し CNJ-である-CNJ CNJ 少ない 望む 多い 望む 具える

𪗇𪗇 ③ 𪗇𪗇.

1che:' 1mi: 1me:
 説く NEG-無い

このようではあるけれども、少なきを望もうと多きを望もうと具えて述べ、無いものはない。

- ① 𪗇𪗇 𪗇𪗇 ldi:k' 2ngu2 2te 𪗇𪗇 ldi:k' 接続詞「～と雖も」、𪗇𪗇 2ngu2 動詞「～である」、𪗇𪗇 2te 継続相を表す助詞。𪗇𪗇 𪗇𪗇 ldi:k' 2ngu2 2te の形で逆接の接続詞として用いられる。
 ② 𪗇𪗇 1te: 仮定を表す
 ③ 𪗇𪗇 1mi: 1me: 𪗇𪗇 1me: は形容詞「無い」。否定辞の𪗇𪗇 1mi: を伴い二重否定の表現にな

参考文献

- 荒川慎太郎(1997)「西夏語通韻字典」『言語学研究』16:1-151
- 俄羅斯科學院東方研究所聖彼得堡分所 中國社會科學院民族研究所 上海古籍出版社 編
(1999)『俄藏黑水城文獻 10』,上海古籍出版社
- 小高裕次(2003a)「東アジア漢字文化圏における識字教育の一例 - 『千字文』『百家姓』
と『新集金碎掌置文』 -」『東アジア言語研究』6:30-38
- 小高裕次(2003b),「論西夏文『金碎掌置文』」,西夏語文研討會 於:中央研究院語言學研
究所(台北)
- 李范文(1997)『夏漢字典』中国社会科学出版社
- 林英津(1994)『夏譯《孫子兵法》』上下,中央研究院歷史語言研究所
- 聶鴻音 史金波(1995)「西夏文本《碎金》研究」宁夏大学学报 7(2):8-17
- 西田龍雄(1964)『西夏語の研究-西夏語の再構成と西夏語の解説』Ⅰ,座右宝刊行会
- 西田龍雄(1966)『西夏語の研究-西夏語の再構成と西夏語の解説』Ⅱ,座右宝刊行会
- 西田龍雄(1970a)「西夏」『モンゴル帝国』80-86,世界文化社
- 西田龍雄(1970b)「西夏王国の性格とその文化」『岩波講座 世界歴史 9 中世 3』63-86,岩
波書店
- 西田龍雄(1975)『西夏文華嚴經』Ⅰ,京都大学文学部
- 西田龍雄(1976)『西夏文華嚴經』Ⅱ,京都大学文学部
- 西田龍雄(1977)『西夏文華嚴經』Ⅲ,京都大学文学部
- 西田龍雄(1997)『西夏王国の言語と文化』岩波書店
- 史金波 黄振華 聶鴻音(1993)『類林研究』寧夏人民出版社